

平成28年度 硬式テニス部



【部員】

男子

- <3 年 生> 城山昇大（大王）濱崎太貴（北浜）岩上哲也（五十鈴）雲井寅成（小俣）
小寺勇一、中川侑紀（厚生）古田将也（港）倉井大輔（城田）
- <2 年 生> 武市 颯、森 大輔（小俣）谷川原徹志（文岡）谷水竜都（安乗）榎本和晃（松阪西）
関 康佑（倉田山）松田寛大、見置峻也（玉城）
- <1 年 生> 森下柊治（安乗）尾間孝輝（文岡）奥田裕登、作野成紀（倉田山）玉山智貴（厚生）
福田竜児（五十鈴）中村太一、中村二千翔（北浜）

女子

- <3 年 生> 伊藤 舞（小俣）三宅璃緒（北浜）濱口桃佳（和具）楠木愛香（長岡）
藤原さくら（豊浜）大橋加奈（御園）本村理紗（港）小林和佳、堤 彩香（城田）
古尾伊澄（厚生）
- <2 年 生> 石井琴音、大黒双葉（文岡）喜田陽月、福井悠（大王）竹内優来、土屋鈴歩（北浜）
中西夢佳（玉城）山口真由（倉田山）上村綾菜（五十鈴）
- <1 年 生> 濱口 京佳（鳥羽東）西岡 玲奈（御園）

【活動実績】

男子

○ 高校総体

男子団体戦		ベスト16	
1 回戦	対 川越高校	2－1	勝利
2 回戦	対 菰野高校	3－0	勝利
3 回戦	対 桑名西高校	1－2	敗退

男子シングルス

ベスト64 中川侑紀 谷水竜都

男子ダブルス

ベスト32 中川・城山組 濱崎・谷川原組

○ 高校選手権

男子団体戦 ベスト16

2回戦 対 稲生高校 3-0勝利

3回戦 対 桑名高校 0-2敗退

男子シングルス（3年生の部）

8位 中川侑紀

男子シングルス（1，2年生の部）

ベスト64 谷水竜都 谷川原徹志 武市颯

○ 新人戦

男子団体戦 ベスト16

2回戦 対 松阪高校 3-1勝利

3回戦 対 海星高校 0-3敗退

男子シングルス

ベスト64 谷川原徹志 武市颯 見置峻也

男子ダブルス

ベスト32 松田・谷水組

女子

○ 高校総体

女子団体戦 6位入賞

2回戦 対 白子高校 3-0勝利

3回戦 対 津東高校 3-0勝利

4回戦 対 鈴鹿高校 0-3敗退

5～8位決定戦 対 セントヨゼフ 2-0勝利

5，6位決定戦 対 桑名西高校 0-2敗退

女子シングルス

ベスト32 藤原さくら

ベスト64 堤彩香、三宅璃緒、伊藤舞、古尾伊澄、本村理紗

女子ダブルス

ベスト16 伊藤・濱口組

ベスト32 石井・土屋組、三宅・堤組、古尾・小林組、楠木・上村組

○ 高校選手権

女子団体戦

2回戦 対 四日市高校 1-2敗退

女子シングルス（1，2年生の部）

ベスト16 上村綾菜

ベスト32 土屋鈴歩

ベスト64 喜田陽月、石井琴音、中西夢佳、山口真由、福井悠

女子シングルス（3年生の部）

ベスト16 伊藤舞

○ 新人戦

女子団体戦

7位入賞

2回戦 対 セントヨゼフ 5－0勝利

3回戦 対 津高校 3－0勝利

4回戦 対 四日市商業高校 0－3敗退

5～8位決定戦 対 四日市高校 2－3敗退

7，8位決定戦 対 鈴鹿高校 3－1勝利

女子シングルス

ベスト32 竹内優来 上村綾菜

ベスト64 土屋鈴歩、大黒双葉、石井琴音、山口真由、福井悠、喜田陽月

女子ダブルス

ベスト16 土屋・上村組

ベスト32 福井・竹内組 中西・西岡組 石井・大黒組

～各大会・思い出のヒトコマ～



◎ 春合宿(3月)



◎ 壮行会(5月)



◎ 高校総体(5月)



◎ 高校選手権（8月）



◎合宿



◎ 新人戦





【概要】

新しく岡村先生を迎え、男子24名、女子21名と多くの部員で、男女合同で練習する機会も増え、男子は悲願のシード権、女子はベスト4奪還を目指しスタートを切った28年度です。

男子は近年最多の24人で、コート狭しと練習に励んでいます。それぞれの学年のまとまりはもちろん、学年を越え自主練する姿、硬式テニスに高校で初めて出逢った者が、一つ一つの技術を先輩から後輩へと伝え、テニスを愛していく姿は、本当にうれしく思っています。今年こそは団体戦ベスト8と挑んだ団体戦は3大会ともベスト16に終わり、シード校に跳ね返される悔しい大会ばかりとなりました。ひと大会ごとに技術とともにチーム力の高まりを感じ、男子でもやっとチームの目標である「仲間の1勝は、みんなの1勝」という言葉が似合うチームとなってきました。個人戦でもこれまでなかなか勝ち上がることが出来なかった南勢地区予選も、多くの選手が勝ち上がり県大会進出を決めてくれました。

女子は新入部員が2名とこれまでになく少ない状況でしたが、2年生がしっかりとフォローし、チーム一丸となってベスト4を目指した1年でした。高校総体は前回より1つ順位を下げ、とても悔しい大会となりました。

夏の高校選手権でこの悔しい思いをぶつけようと、3年生の多くが夏の大会まで残ってくれました。しかし、ノーシード校の中でも力のある学校と初戦からあたり、シード権を失うこととなりました。しかしながら、個人戦でも実績のある選手に最高の試合をするも、力及ばず引退していった3年生が残してくれた戦う姿勢は、後輩たちの眼に焼き付けられた大会でした。

新チームで臨んだ新人戦。個人戦でも多くの2年生が県大会に進出し、シード権奪回を目指し団体戦に臨みました。しっかりと力を発揮し勝ち上り、ベスト8に進むことが出来ました。しかし、県1位の四日市商業には全く歯が立たず順位決定戦へ。5位入賞を目指し夏のリベンジを果たそうと戦った5～8位決定戦では、惜しくも1本差で敗退。その後、モチベーションをもう一度上げ、7位決定戦で勝つことが出来たことに大きな成長を感じ、長い秋冬に向け、さらなる飛躍を感じ取れた大会となりました。

卒業していった3年生は本当に個性豊かな生徒ばかりでした。個性が強すぎてその時その時は苦勞の連続でしたが、終わってみれば本当に一緒に過ごした時間は、楽しい思い出ばかりの学年でした。次のステージでの活躍を祈ります。

在校生は悔しい大会を重ね、落ち込んでもすぐに切り替え、次の目標に照準を絞り努力する。成長していく自分たちを感じることが出来た生徒たちの29年に期待したいと思います。